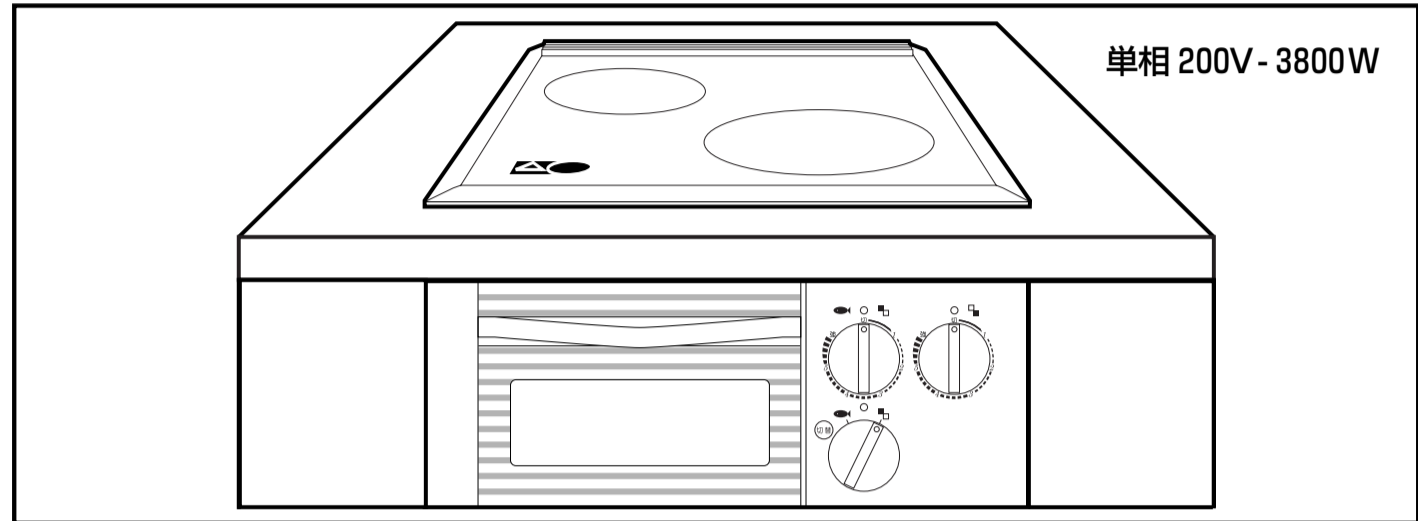


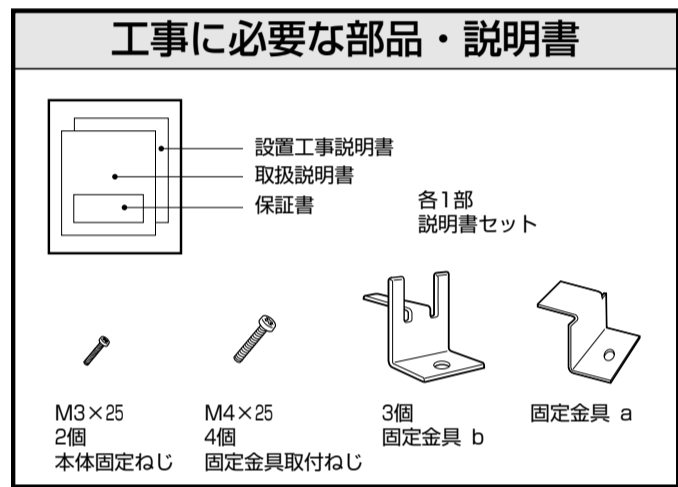
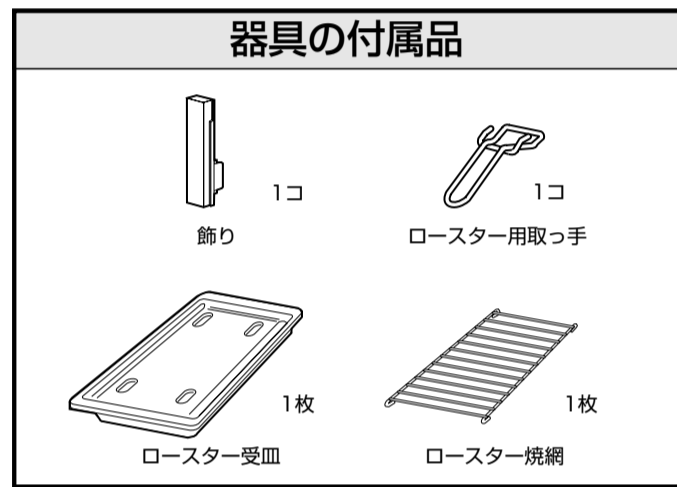
# ハイグラストップ クッキングヒーター SRH-252G 設置工事説明書

- この商品を安全に正しく設置していただくために、設置工事の前にこの設置工事説明書をよくお読みになり、この設置工事にしたがって確実に設置工事を行なってください。
- 設置工事完了後、試運転を行ない異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。
- この設置工事説明書は工事完了後、お客様にお渡しし、取扱説明書とともにお客様で保管していただくように依頼してください。

## ハイグラストップ



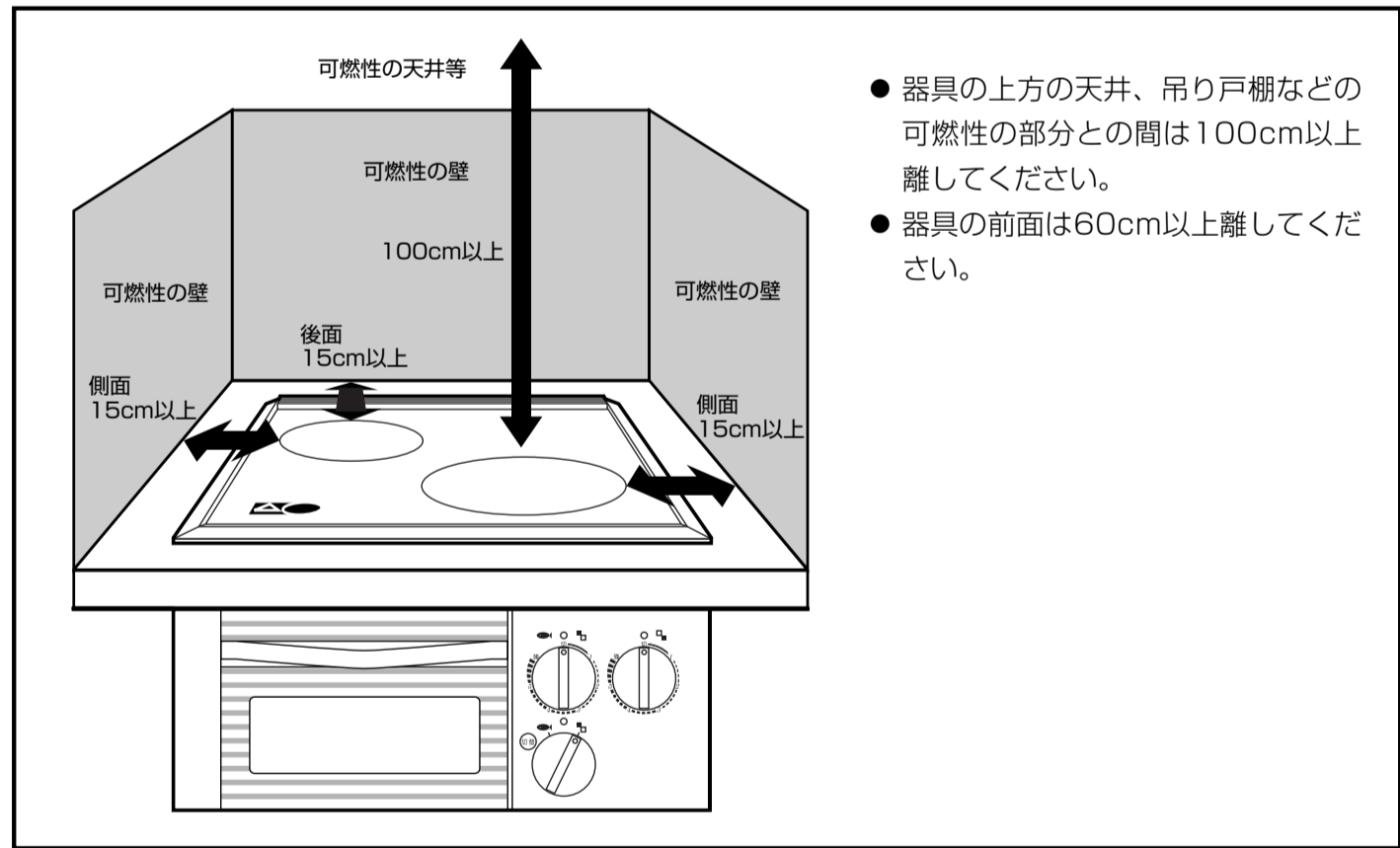
## 同梱部品



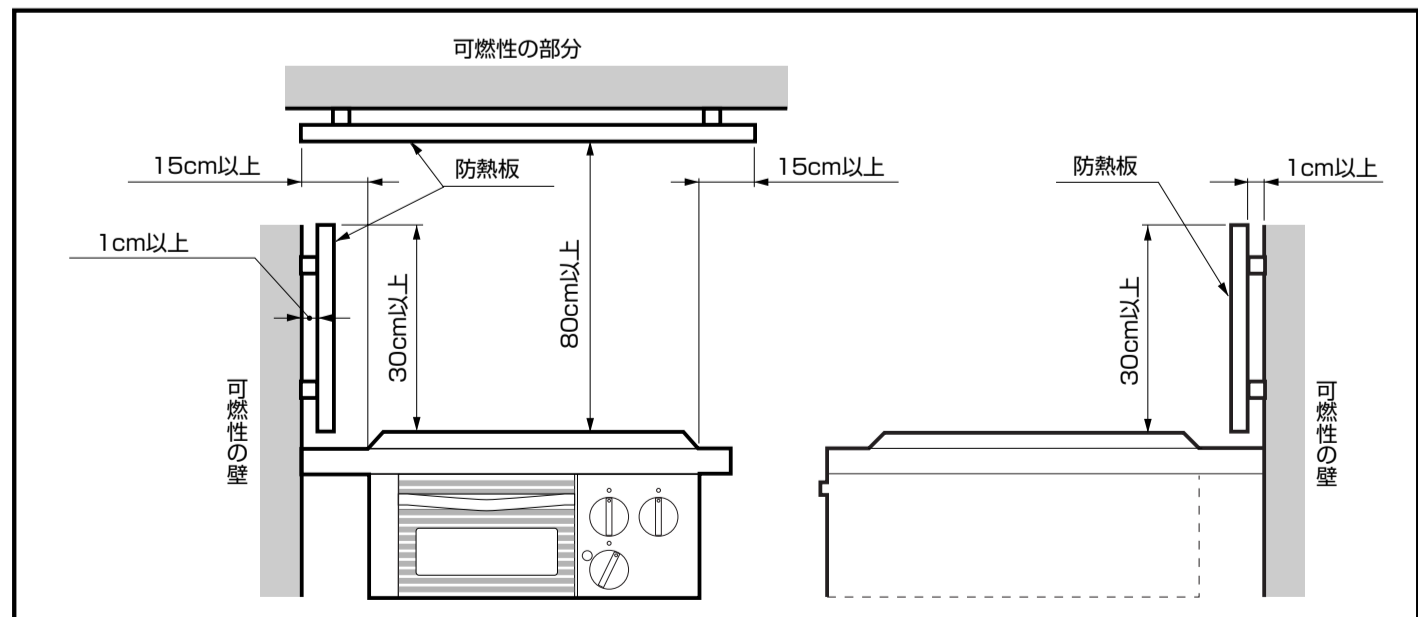
◆上記の部品が同梱されています。不足品のないことを確認してください。

## 設置前のご注意

### ■周囲が可燃性の壁の場合（防火構造壁以外）



### ■上記の距離がとれない場合



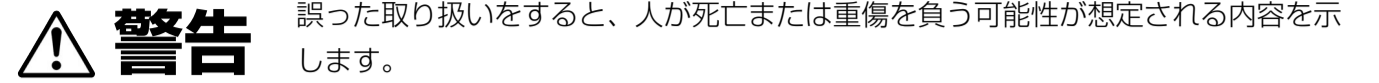
- 製品の金属部がシステムキッチンの金属部と接触する場合は、建造物の壁中の金属（メタルラスなど）とシステムキッチンの金属部と接触しないようにするか、または、製品の金属部がシステムキッチンの金属部に接触しないように取り付けてください。（電気設備技術基準第182条により義務づけられています。）

### ご注意

この器具を設置される台所が、建築基準法に定める（内装制限を受ける調理室）に該当する場合は、台所全体についても内装材の制限を受けます。

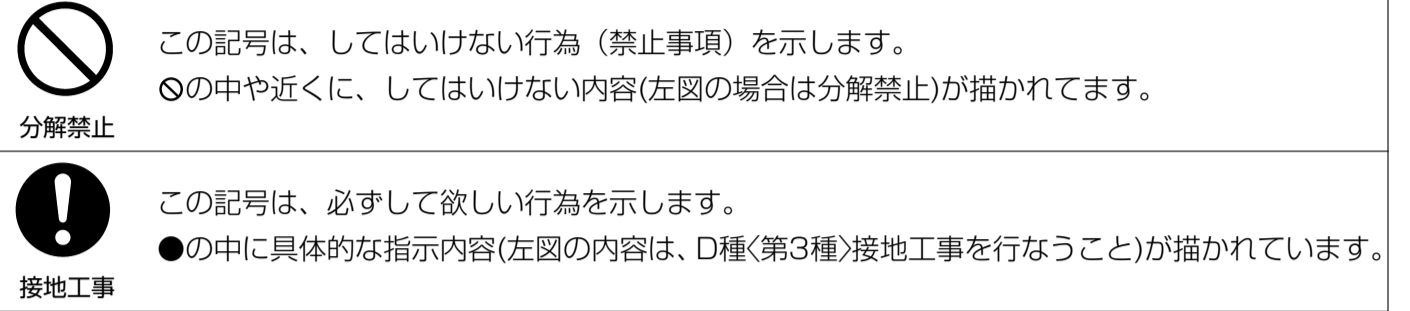
## 安全上のご注意 必ずお守り下さい

設置工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく設置してください。  
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。  
表示とその意味は、次のようになっています。



### ■絵表示の例

下に示す記号は、説明書や製品に表示して、使用者に注意を促すための記号です。  
書かれている内容を注意深くお読みください。



## 警告

**据え付け工事は、専門業者に依頼する**

！ ご自分で据え付け工事をされ、不備があった場合、感電や火災の原因になります。

**設置工事説明書をよく読み正しく確実に工事する**

！ 不備があった場合、感電や火災・けがなどの原因になります。

**電源プラグの刃および刃の取付面にほこりが付着していないか定期的に確認し、ガタのないように根元まで確実に差し込む**

！ ほこりが付着したり、接続が不完全な場合は、感電や火災の原因になります。

**コードを傷付けたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、挟み込んだりしない**

○ 禁止 コードが破損し感電や火災の原因になります。

## 警告

**設置するときは、火災予防条例に基づいて、可燃物との離隔距離を必ず守る**

！ 距離が近いと、火災の原因になります。

**器具の周囲のすき間(特にロースター部前面の周囲のすき間)を埋めて固定しない**

○ 禁止 電源部の点検やアフターサービスができなくなり、周囲が過熱して火災につながる恐れがあります。

## 流し台温度上昇

- 流し台に使用する材料は145℃の熱に耐えるような材料を使用してください。また、接着剤等の耐熱性にもご注意ください。
- 1 異常温度上昇試験において、流し台の各部分の温度は145℃以下(基準周囲温度30℃) この試験条件は左右のヒーターにフライパンを空でのせ、強火で連続通電すると共に、グリルの庫内温度を約280℃に保つ状態に相当します。
- 2 平常温度上昇試験において流し台の各部分の温度は95℃以下(基準周囲温度30℃) この試験条件は左右のヒーターに水を入れた鍋をのせ、強火で連続通電すると共に、グリルの庫内温度を約280℃に保つ状態に相当します。

## 製造開始の届出

- 工事現場で工事人が取り付ける時は別ですが、家具製造者等が製造活動として家具等に取り付ける時は電気用品取締法の製造規制の対象となりますので、確認してください。乙種電気用品の届出が必要です。

## 電気工事

- ハイグラストップは電気容量が大きいので、専用に対応配線された電源(単相200V、30A以上の専用回路)を使用してください。
  - 電源の位置は、「システムキッチン加工寸法図」裏面を参照してください。
  - 万一のときの安全のために、漏電遮断器の設置をしてください。
- ※接地工事および漏電しゃ断器の設置は、電気設備技術基準および内線規定にしたがってください。

## 接地工事

- ハイグラストップは定格電圧200Vですから、接地工事が必要です。
- D種(第3種)接地工事を行ない接地抵抗を測定してください。(接地抵抗値の目安は100Ω以下になる様に法規に基づいた線を使用してください。(φ1.6mm以上の軟銅線で被覆が緑色のもの))
- 接地線は塩ビ電線管で保護してください。
- 接地は湿気が多く、ガス管、水道管などが埋設されていない人通りの少ない場所を選んでください。
- 避雷針の設置場所からは2m以上離してください。

## 警告

**電気配線工事は必ず電気工事登録業者に依頼する**

！ ご自分で配線工事をされ不備があると、感電や火災の原因になります。

**200V30A以上の専用回路と漏電遮断器を設置する**

！ 配線部が異常発熱して、発火する恐れがあります。

**D種(第3種)接地工事を必ず行なう**

！ アースが不完全な場合は、感電の原因になります。

**電源線およびアース線は、プラグを外して直結しない**

○ 禁止 漏電やショートにつながることもあり、感電や発火の原因になります。



